



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第52回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

### マナー編 試合前後のあいさつ

試合前に両チームが整列してあいさつを交わしています。試合に臨む選手たちの気持ちが伝わる清々しいシーンですが、両チームがあいさつする間がずれているのが気になります。

チーム間がバラバラで挨拶するのは確かに見苦しいので、試合開始及び終了後の挨拶は、両チームが同時に合わせてするように指導しています。具体的には、球審の「礼」という声に合わせて、両チーム一斉に脱帽して「お願いします」、「ありがとうございました」と発声しながらお辞儀をするように、と指導しています。挨拶は「語先後礼」といって、先に発声し、その後お辞儀をするという原則があります。指導者や選手たちはこうした挨拶の原則のもとに行動してきたのだと想像しますが、高校野球では、両チームが息を合わせて試合に臨む、あるいは終わるという意味で、取ってことばとお辞儀を同時に行うように指導しています。どうか趣旨を理解して対応ください。また、事象としては減っていますが、投手が球審からボールを受け取る時の脱帽や会釈、打者が打者席に入る時の球審への会釈、伝令のファイルインでの会釈はいずれも不要です。試合前の挨拶はこれら全てを含めたものと考えられているからです。それよりも、早く次の行動に移ることが最も重要です。

### ルール編 出合い頭のプレイ

右打者が送りバント、一塁へ駆け出そうとした時に捕手と接触し、両者が転倒しました。球審は両手を横へ広げてセーフと同じゼスチャーと同時に「ナッシング」「That's Nothing」と発声しました。打者走者が一塁に到達(セーフ)となった後、守備側から「守備優先なので、守備妨害ではありませんか?」と伝令が送られました。さて球審はどのように説明したのでしょうか?

公認野球規則7.09は打者または走者のインターフェア(守備妨害)を規定し、打者または走者をアウトとする規定です。その(j)では「走者が打球を処理しようとしている野手を避けなかったかあるいは送球を故意に妨げた場合。(以下、後略)」と定められているので、この場合は打者走者にアウトが宣告されるように理解できますが、同条項には原注があり、「捕手が打球を処理しようとしているときに捕手と一塁へ向かう打者走者とが接触した場合は、守備妨害も走塁妨害もなかったとみなされて何も宣告されない。打球を処理しようとしている野手による走塁妨害は非常に悪質で乱暴な場合にだけ宣告するべきである。例えば打球を処理しようとしているからといって走者を故意につまずかせるようなことをすれば、オブストラクションが宣告される。捕手が打球を処理しようとしているのに一塁手、投手が一塁へ向かう打者走者を妨害したらオブストラクションが宣告されるべきで、打者走者には一塁が与えられる。」と規定されています。

球審は、伝令にこの原注の内容(下線部)を説明したのです。もちろん打者が故意にスタートを遅らせ捕手の守備を妨害したような場合には、守備妨害が宣告され、各走者は投手の投球当時に占有していた塁に帰塁させることになります。

なお、2015年度から球審が「ナッシング」「That's Nothing」と発声することとしました。例えば、**三塁盗塁時に、捕手の三塁送球が自然に構えている打者に当たった場合なども同様です。この場合はインプレイですのでプレイを続行するよう選手は留意してください。**

